

『2025赤穂市総合戦略』進捗状況の概要 (令和5年度時点)

令和6年11月11日(月)

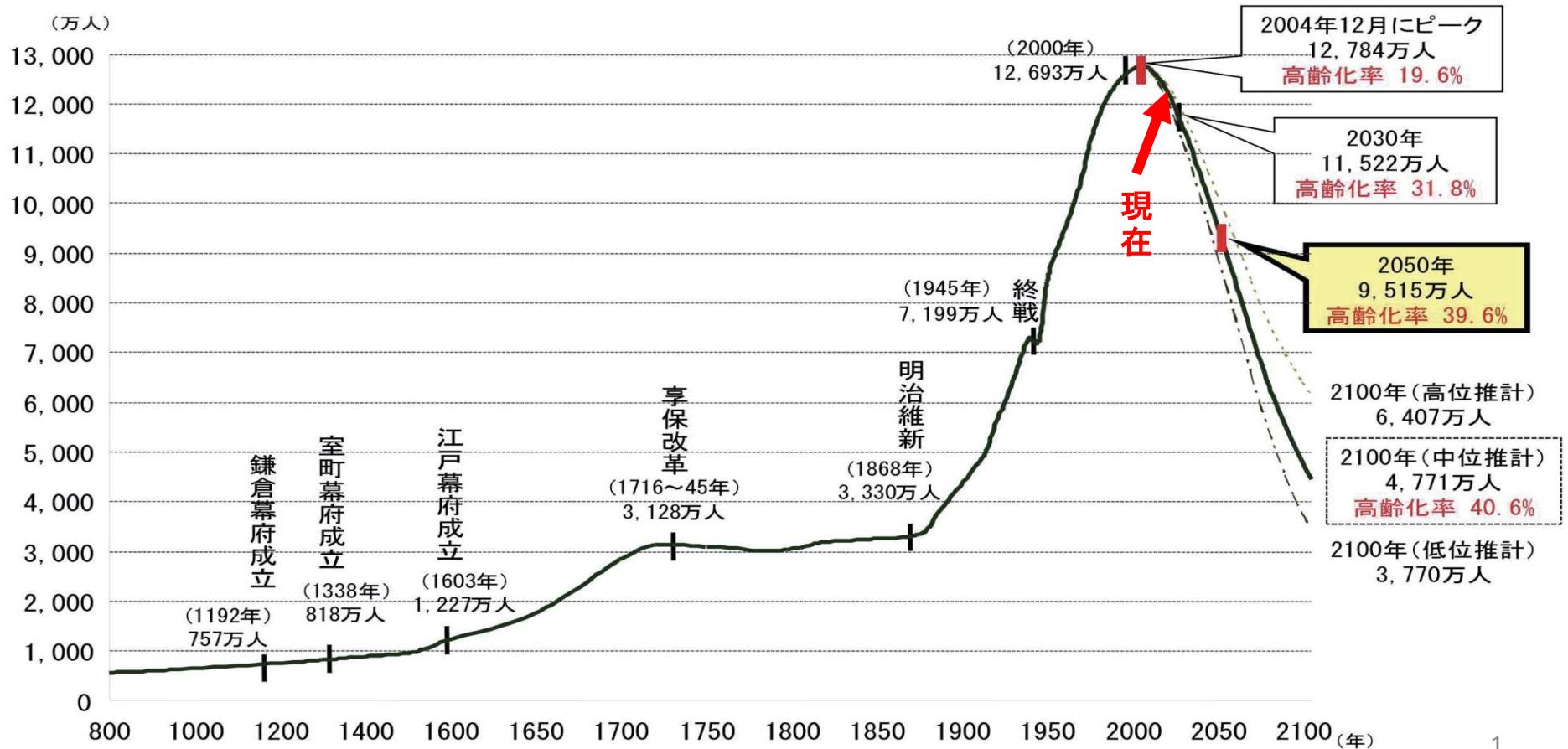
赤穂市役所

2025赤穂市総合戦略①

○現時点以降、政府は、日本の人口が驚異的な速度で減少していくと想定
(今後80年で**最大約8,000万人**の人口が失われ、**明治時代後半の人口規模**へ)



本格的な人口減少社会の到来



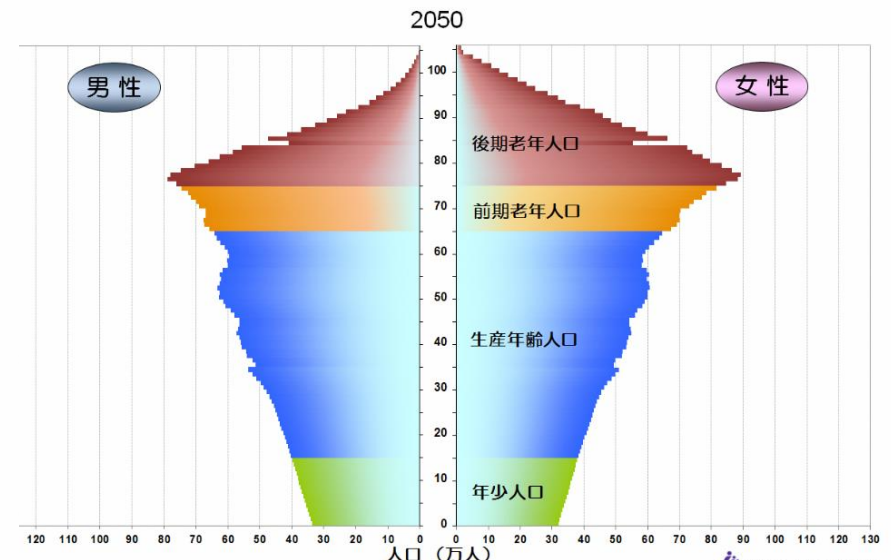
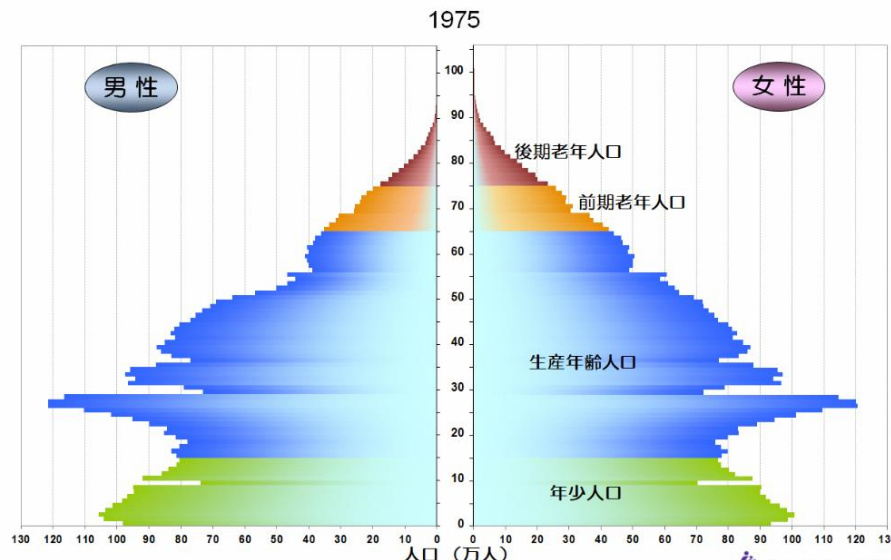
2025赤穂市総合戦略②

- 日本の人口構造は、1970年代初頭(1971年～1974年)の第二次ベビーブーム世代(団塊ジュニア世代)以降、一貫して少子化が進行
- その結果、第二次ベビーブーム世代が後期老年人口(75歳)となる2050年時点で、完全な『つぼ型』(高齢者人口の割合が多く、15歳未満の人口の割合が少ない型)へと転換



人口減少社会と少子高齢化社会の同時到来へ

日本の人口ピラミッドの推移



資料：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口(平成29年推計)」。

国立社会保障・人口問題研究所

：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)。

国立社会保障・人口問題研究所

2025赤穂市総合戦略③

○赤穂市の人口は2010年から2060年にかけて半減すると予測

2010年 50,523人 ⇒ 2060年 24,172人

○我が国における急速な少子高齢化に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保するため、国・兵庫県・赤穂市が計画を策定

➡ 赤穂市は『**2025赤穂市総合戦略**』を策定し、人口維持に向けた施策を実施



総合戦略実施による
人口推移の改善

※2010年 (平成22年)、2015年 (平成27年) は、国勢調査

※社人研推計準拠は、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口 (2018年 (平成30年) 推計)」

2025赤穂市総合戦略④

○『2025赤穂市総合戦略』では、3つの基本目標を定め、各目標ごとに基本目標指標(KPI)による進捗確認を行いながら、人口減少社会・少子高齢化社会への対策を実施



目標①

自然動態(出生・死亡)の改善
・子ども・子育て支援 ・健康づくりの推進



目標②

社会動態(転入・転出)の改善
・赤穂の魅力を発信 ・定住基盤の充実
・郷土愛の醸成



目標③

交流・関係人口(来訪者や地域
と多様に関わる人)の創出
・地域資源を活用した魅力の創出など



基本目標1 自然動態（出生・死亡）の改善

基本目標指標

自然増減数(出生数－死亡数)(5年間の累計)

| 基準値 R7 | 目標値 R7 | 実績値 R3 | 実績値 R4 | 実績値 R5 | 実績値 R6 | 実績値 R7 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| △1,948人 | △1,851人 | △389人 | △885人 | △1,343人 | | |

達成状況

C

どのような施策や取組が、達成状況に影響したか

待機児童の解消はできているなど、子育てを支援する環境は整ってきたが、子育てしやすい環境にあると思う人の割合が減少している。また、死亡数に影響する生涯を通じた健康づくりを推進する取組についてはC評価が多いことが達成状況に影響していると考えられる。

地方創生への効果

C

どのような効果があったか

基準値・目標値を5年の計画期間で按分すると、前者が△1,169人、後者が△1,111人となる。令和5年度実績は△1,343人で、基準値・目標値ともに下回っており、施策の効果が実現しているとはいえない。

今後の方針

改善

今後の方針の理由

人口減少が社会問題となっている中、赤穂市の都市機能を維持し、市民に住みよい環境を提供するためにも、自然動態の改善のために施策の見直しが必要である。

基本目標2 社会動態（転入・転出）の改善

基本目標指標

社会増減数(転入者数－転出者数)(5年間の累計)

| 基準値 R7 | 目標値 R7 | 実績値 R3 | 実績値 R4 | 実績値 R5 | 実績値 R6 | 実績値 R7 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| △586人 | △81人 | △302人 | △386人 | △538人 | | |

| | |
|------------------------|--|
| 達成状況 | C |
| どのような施策や取組が、達成状況に影響したか | 設定した施策に関しては、全て目標を概ね達成しており、特にお試し暮らし住宅戸数や認定農業者数、工場立地促進条例による新規指定事業者数については、目標を達成しているが、社会動態は改善していない。 |
| 地方創生への効果 | C |
| どのような効果があったか | 基準値・目標値を5年の計画期間で按分すると、前者が△352人、後者が△49人となる。令和5年度実績は△538人となっており、基準値・目標値ともに下回っている。引き続き施策の効果実現に向けて取り組む必要がある。 |
| 今後の方針 | 改善 |
| 今後の方針の理由 | 市民に持続可能な都市機能を提供するために人口規模の維持は必要不可欠であり、社会動態の改善のために施策の見直しが必要である。 |

基本目標3 交流・関係人口（来訪者や地域と多様に関わる人）の創出

基本目標指標

観光入込客数・うち宿泊者数

| | 基準値 H30 | 目標値 R7 | 実績値 R3 | 実績値 R4 | 実績値 R5 | 実績値 R6 | 実績値 R7 |
|---------------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 観光入込客数 | 1,413千人 | 1,500千人 | 993千人 | 1,091千人 | 1,082千人 | | |
| 上記のうち 宿泊者数 | 276千人 | 290千人 | 235千人 | 380千人 | 353千人 | | |

| 基本目標指標 | 観光入込客数 | 上記のうち、宿泊者数 |
|--------------------------------|--|--|
| 達成状況 | C | A |
| どのような施策や 取組が、達成状況 に影響したか | (一社)あこう魅力発信基地と連携し、赤穂スイーツのPRを行ったほか、ICTを活用した情報発信等により誘客促進を図ったが、目標達成には至っていない。 | (一社)あこう魅力発信基地と連携し、赤穂スイーツのPRを行ったほか、ICTを活用した情報発信を行い、目標を達成した。 |
| 地方創生への効果 | B | A |
| どのような効果が あったか | 新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ観光客数が少しずつ回復している。 | 新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んでいた宿泊客数が回復し、コロナ禍以前を上回った。 |
| 今後の方針 | 継続 | 継続 |
| 今後の方針の理由 | 地域一体となった観光地経営の推進を図ることにより交流人口の拡大と稼ぐ力の向上による地域活性化を推進するため、引き続き(一社)あこう魅力発信基地と連携し、事業を実施する。 | 地域一体となった観光地経営の推進を図ることにより交流人口の拡大と稼ぐ力の向上による地域活性化を推進するため、引き続き(一社)あこう魅力発信基地と連携し、事業を実施する。 |